

「2018韓日部品素材商談会」参加報告

ERINA 経済交流部長
安達祐司

1 全体概要・背景

9月19日、韓国京畿道高陽市のKINTEX (Korea International Exhibition Center)において、「韓日産業技術FAIR 2018」(以下、FAIR)が開催された。高陽市は、ソウル特別市の北西に隣接し、総人口は約100万人。ソウルのいわゆるベッドタウンとして、現在も高層マンションの建設が

進められている。KINTEXは、韓国最大のコンベンションセンターで、2005年4月に開業し、2011年9月には、今回のFAIRの会場となった第2屋内展示場KINTEX2が完成した。ソウル中心部から地下鉄で約50分の距離にあり、仁川国際空港及び金浦空港からは直行バスも運行されている。

このFAIRは、昨年まではソウル中心部のホテルで開催されていたが、今年は、

KINTEX 外観



(出所) 筆者撮影

FAIR全体の規模拡大に伴い、会場をKINTEXに移して開催された。

今年のFAIRは、「韓日部品素材商談会」を含む表1に示す7件の催事が同時並行で実施された。

表1に記載の通り、「韓日部品素材商談会」は日韓の共催であるが、それ以外の催

事については、韓国側機関の単独開催となっている。ちなみに、このFAIRには、次の背景があるとされている。

- 日韓貿易におけるアンバランス(日本側の輸出超過)の解消
 - 韓国における青年人材の就職難
- 参考までに、日韓貿易の状況を表2に示す。

授賞式において、次の4企業(団体)・2個人が、韓国産業通商資源部長官名の賞を受賞した。

【企業(団体)】

- (株)TTS
- ERINA
- 韓一金属工業(株)
- 北陸経済連合会

【個人】

- 梅原技術士事務所 梅原敏靖代表
- (株)象牙プロンテック 禹炳賛理事

この韓日産業協力賞は、両国の産業技術発展と交流・協力の増進に貢献した企業(団体)・個人に贈られるもので、今回、ERINAも韓日部品素材商談会への日本企業参加を継続して支援してきたことが評価され、受賞した。

表1 FAIR を構成する催事

催事名称	主催	目的・概要
韓日部品素材商談会	韓日産業・技術協力財団 日韓産業技術協力財団	金型、機械・自動車部品、電気・電子部品などの分野の企業間におけるビジネスマッチングを通じて、主として韓国企業の日本市場進出を支援する。
韓日ベアリングパイヤー招聘商談会	韓日産業・技術協力財団 韓国ベアリング産業協会	ベアリング製造分野での企業間におけるビジネスマッチングを通じて、韓国企業の日本の高付加価値ベアリング市場への参入を支援する。
韓日自動車部品商談会 韓日自動車部品購買戦略セミナー	韓日経済協会 韓日産業・技術協力財団	三菱自動車への部品納入に係る商談会及び購買戦略セミナーを通じて、韓国製自動車部品の対日輸出拡大を図る。
日本優秀退職技術者技術指導マッチング相談会	韓日産業・技術協力財団	韓国企業が技術指導を希望する製造分野における日本企業の退職技術者を招き、相談会を通じて、韓国企業の技術レベルの底上げを図る。
日本就職環境説明会	韓日産業・技術協力財団 大韓貿易投資振興公社	韓国の青年人材に日本での就職に関する正確な情報を提供するとともに、11月に予定されている「日本就職博覧会」の事前広報を行う*
日本企業就職相談会	韓日産業・技術協力財団	総合人材サービス会社「パーソルホールディングス(株)」の協力の下、韓国青年人材と日本企業との就職相談会を行う。

*「日本就職博覧会」は、昨年は「韓日部品素材商談会」と同時期に開催されていたが、本年は、11月5日に釜山、11月7日にソウルで開催される。

表2 日韓貿易の状況

(単位:百万ドル、通関ベース)

年	日本の輸出 (A)	日本の輸入 (B)	収支 (A-B)
2013	60,029	34,662	25,367
2014	53,768	32,184	21,585
2015	45,854	25,577	20,277
2016	47,467	24,355	23,112
2017	55,125	26,816	28,309

○日本の主要輸出品目: 半導体製造装置、半導体、プラスチック製品、鉄鋼板、フラットパネルディスプレイ装置、精密化学原料、光学機器、原動機及びポンプ、計測制御分析器

○日本の主要輸入品目: 石油製品、鉄鋼板、半導体、自動車部品、精密化学原料、プラスチック製品、合成樹脂、鋳鍛造品、嗜好食品

(出所) ジェトロホームページ、貿易額表は韓国貿易協会による

一連の催事に先立ち、全体の開会式が行われた。(敬称・内容省略)

- 開会挨拶
金銃 韓日産業・技術協力財団理事長 是永和夫 日韓産業技術協力財団専務理事
- 来賓挨拶
金昌圭 韓国産業通商資源部新通商秩序戦略室長
長嶺安政 駐大韓民国日本国特命全権大使
- 韓日産業協力賞授賞式
金昌圭 韓国産業通商資源部新通商秩序戦略室長

開会式



(出所) 韓日産業・技術協力財団

ERINA 受賞の賞状と盾



(出所) ERINA 撮影

2 韓日部品素材商談会の概要

上記1の全体概要・背景で記載したように、この商談会は韓国企業の日本市場参入を後押しするFAIRの主要催事であり、2008年の初回以来、今年で11回目の開催となる。ERINAは、主催者である韓日産業・技術協力財団と2008年に包括的な交流協力協定を締結しており、この協定に基づき、2009年からERINAの出捐県のネット

ワーク等を活用して企業の募集、参加企業の渡航調整、現地アテンドなどを通じて商談会への支援・協力を行っている。

今回、商談会に参加した企業は28社で、各協力団体が募集した企業数の内訳は表3の通りとなっている。また、従来は、韓国製部品・素材の対日輸出を商談の対象としていたが、今回は、日本からの輸入も商談対象とし、企業募集が行われた。

表3 協力団体募集の企業数

募集協力団体	参加企業数
日韓産業技術協力財団	18
大阪商工会議所	4
岐阜県産業経済振興センター	5
ERINA	1
合計	28

韓日産業・技術協力財団による商談会の暫定的な結果は表4の通りである。

表4 韓日部品素材商談会の暫定結果

日本企業	韓国企業	商談件数	内 訳		商 談 結 果		
28社	90	156	対日輸出	113	取引 可能性	上	40
			対日輸入	36		中	85
			その他	7		下	31
			合計	156	合計	156	
				商談金額	3400万ドル		

ERINAが募集した1社は、韓国企業8社と対日輸入の商談を実施した。

この商談会は、単に韓国からの部品・素材の調達先を発掘するだけでなく、相互の販路開拓、生産委託、共同開発、技術提携等のパートナー開拓の場として活用されている。日本の財務省貿易統計によれば、2017年の日本の韓国との貿易総額は9兆1280億円(対前年比約18%増)で、この額は日本の対中国、対米国貿易に継ぎ第3位を占めており、地理的近接性や産業構造などから、日本にとって韓国は今後も重要な貿易相手国であり続けると考えられる。こ

うした状況、さらには、韓国からの輸入商談を行う日本企業には渡航費を韓日産業・技術協力財団が負担するなど、インセンティブも用意されていることを踏まえると、この商談会は、日本の、特に中小企業にとって、ビジネスパートナーを発掘する好適な場であり、様々な形態のビジネス創出に活用できると考える。

参考までに、FAIRにおける当該商談会以外の催事について、主催者が開催前の段階で把握・発表している参加企業等の数を表5に記す。

表5 韓日部品素材商談会以外の催事参加企業等の数

催事名称	参加企業等
韓日ベアリングバイヤー招聘商談会	韓国企業:21社、日本企業:7社
韓日自動車部品商談会 韓日自動車部品購買戦略セミナー	韓国企業関係者:約50名 三菱自動車関係者:5名 商談件数:12件
日本優秀退職技術者技術指導マッチング相談会	韓国企業:37社、日本人技術者:56名 相談件数:67件
日本就職環境説明会*	韓国青年人材(求職者):約200名
日本企業就職相談会*	韓国青年人材:162名、日本企業:16社 相談件数:280件

(出所)韓日産業・技術協力財団

*日本就職環境説明会及び日本企業就職相談会については、開催後の数値。

3 終わりに

FAIR開会式での関係者挨拶においても言及されたが、本年は、1998年10月に当時の小渕恵三首相と金大中大統領との間で、両国の未来志向の関係をうたった「日韓共同宣言—21世紀に向けた新たなパートナーシップ」が署名されてから20周年の節目の年に当たる。

財務省貿易統計による1998年の日韓間の貿易総額は3兆5818億円で、単純に比較すると、2017年では9兆1280億円と約2.5倍に増えている。また、両国の人の往来も、1998年は訪日・訪韓の合計が約272万人であったが、2017年では合計約945万人と約3.5倍に増えており、2018年では1000万人を超えることが見込まれている¹。この20年間で、数字の上からも両国間の経済交流、人的交流は着実に進展しており、ERINAとしては、今後も韓日産業・技術交流財団を始め韓国側関係機関と緊密に連携し、韓日産業技術FAIRへの協力などを通じて、この流れを支える両国の地域間交流の活発化に貢献したいと考えている。

¹ 1998年の訪日韓国人約72万人、訪韓日本人約200万人。2017年の訪日韓国人約714万人、訪韓日本人約231万人。出所:日本政府観光局、韓国観光公社